



三木課長のコンテンツ活用案

対象：土木業界の新入社員

伝えたいこと：土木の偉人について知ってほしい

- 土木業界にも偉人がいることを知ってほしい
- 過去の偉人がどれだけ新しいことに挑戦してきたか知ってほしい
- 今もその挑戦精神は必要（現代ではどれだけ業界外の技術を取り入れられるかが重要ではないか）
- これから土木の仕事に邁進するうえでの挑戦精神をこれらコンテンツで掻き立ててほしい

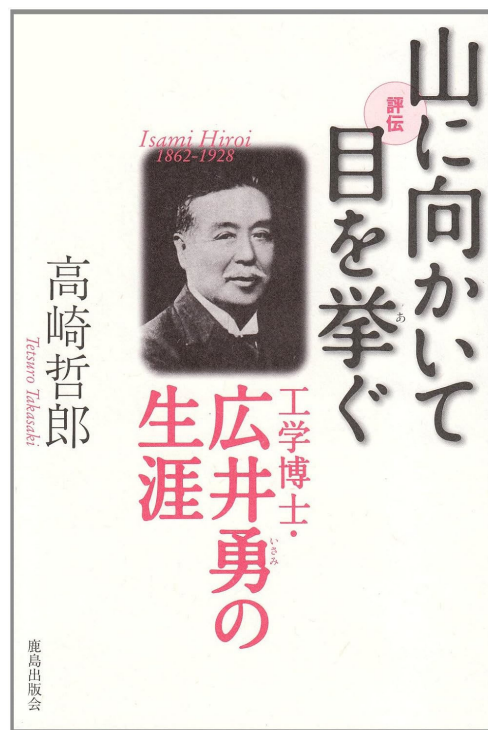


三木課長のコンテンツ活用案

土質力学の父 カール
テルツァーギの生涯



山に向かいて目を挙ぐ
広井勇の生涯



荒川知水資料館
青山土コーナー





南荘副課長のコンテンツ活用案

対象：小中学生

伝えたいこと：土木インフラの魅力、カッコよさや大事さ、自分も将来こんなものを作ってみたい、関わってみたいという夢

- 鉄道模型用のパーツとしては多数発売されているが、小中学校での、理科工作教材としての安価な模型工作キットがなかなか見つからない（CVV など は自主製作）
- 小中学生の社会見学の対象として、自然観察や工場見学等に加えて、土木施設が取り上げられるような取り組みが必要。その際活用できる資料や教材の提供、最近では3D データを組み合わせた視聴覚教材も可能



南荘副課長のコンテンツ活用案

CVV「いきいき」活動の事例

https://note.com/civil_id/n/n2b8520d10548?magazine_key=mfd68c90e23cf



橋のメンテナンスネットの事例

<http://bridge-maintenance.net/education/#education0>





中島課長補佐のコンテンツ活用案

対象：土木工学科の大学生（研究室を決めていないが上下水に興味のある学生）

伝えたいこと：水の価値観を五感で感じてほしい、これまで勉強した内容と実際をつなげてほしい

- ・体験型を中心とし、机上の勉強だけでなく実際にふれてもらいたいと感じた



中島課長補佐のコンテンツ活用案

- 旧三河島污水処分場唧筒場（ポンプじょう）施設 | 東京都下水道局 (tokyo.lg.jp) (体験型 見学会)



- 下水道アドベンチャー | 東京都下水道局 (gesuido-adventure.jp) (HPに下水道についてのゲームや動画あり)



- 全国下水道広報施設 | みんなの循環のみち下水道 環境教育ポータルサイト (21stgesui.jp) (全国下水道広報施設はこちらから)



工藤委員のコンテンツ活用案

土木学会が会員を有するというメリットを最大限に活用し、オウンド・メディア（動画発信チャンネル）として土木学会アプリを開発・運用してはどうか

- アプリは、土木学会の会員にサポートしてもらう形で有料サブスクリプションにより収益化することで、課題となる動画コンテンツ制作費およびアプリ開発・運営費をまかなうことができ、高品質・継続的な発信が可能となる。
- つまり土木関係者一人一人が、少額出資することにより、土木関係情報を公に発信するメディアのステークホルダーのような存在となるとともに、自らが最大の受益者として有用な土木情報を取得でき、さらに土木の価値を社会に伝える一助ともなるエコシステムが土木アプリのビジネスモデルである。
- 会員以外の一般ユーザーも取り込むため、無料コンテンツを設け、DobokuTVや土木インフルエンサーが発信している番組コンテンツも掲載できないか。アプリ収益からそれらの番組制作費を補助することで番組の質と量を高めていただき、かつ継続しやすくするサポート体制も構築できる。





江城委員のコンテンツ活用案

対象：土木工学科の大学院生，研究者

伝えたいこと：自分の研究対象がどのように描かれているのか（＝どのように捉えられているのか（作者は何か意図を持って構図などを決めているはず））を知ってもらいたい、可能であれば自分でイラストや絵を描くことで、研究対象の理解や解像度を上げてほしい

- 絵は現実そのものではないので、自分の着目箇所のみ詳細に描いたり，構図を意図的に変えたりできる、その意図を読み取ることで，作者（一般の人だったりそうでなかったりする）が描画対象をどのように捉えているのか思いをはせ，新たな視点を得ることができると感じた
- 絵画において描くことは見ること、研究対象を描くことで，よりよく観察し，かつ描いた絵を通じてその良さを自ら広めてほしい



江城委員のコンテンツ活用案

- 施工がわかるイラスト土木入門(<https://www.shokokusha.co.jp/?p=13743>)



- 「身近な土木を描いてみよう！」図画コンクール
(<https://note.com/jsce/n/nabb55004a8b6>)





岩野委員のコンテンツ活用)

対象：小・中学生（特に建設関係に従事している方々のご子息）、小・中学校教師

伝えたいこと：将来建設業（特に土木）に関わる仕事に従事する夢を与える、ご両親や親類の方が、土木関係の建設に関わっていることを誇りに思う。

- 「ダムをつくったお父さんたち」の絵本は、インドネシアのジャワ島チラタに巨大なダムと地下発電所が作りあげられるまでを現地取材して描いた、科学ドキュメント絵本である。ダム・地下発電所の計画から設計・施工まで様々な土木技術を通して土木の魅力が一貫してわかりやすく説明されている
- また、地球規模の大きなインフラ計画が、国際協力という理想的な姿で実施されているのを教えるのにも良い教材であると思う。実際、海外各地の日本人学校でも小・中学生が国際協力を学ぶ授業の教材として広く利用されている。
- 「地下鉄子供探検隊」のアニメーションは、1) 日本における地下鉄のはじまりから2) 知っておきたい地下鉄の作り方3) 都市の中で活躍する地下鉄4) より安全で快適な地下鉄へ5) 利用者マナーを守るの5部の短編アニメーションで構成されており、自分の興味に応じてどこからでも楽しむことができる。地下鉄に関する興味が徐々に増長するような構成となっており、地下鉄というインフラを通して土木の魅力を自分自身の感性で感じ取れる作品になっていると思う。



岩野委員のコンテンツ活用案



ホーム > 地下鉄こども探検隊

地下鉄こども探検隊

1.日本の地下鉄のはじまり



2.知って驚き!地下鉄の作り方



3.都市の中で活躍する地下鉄



4.より安全で快適な地下鉄へ



5.利用者マナーを守る



梶崎委員、鳥居委員のコンテンツ活用案

課外活動案①

本格取材編 2時間×5回 ※撮影回は4時間程度想定

地元の土木関係の会社などを取材し、どんな取り組みを何の為にしているかを伝えるショート動画を1人1本制作する。

<Day1>

- ・オリエンテーション
- ・ミートアップ
- ・動画のアイデア出し

宿題：動画の構成を考えてくる

<Day2>

- ・動画構成案添削
- ・撮影のコツについて
- ・編集ソフトの使い方

宿題：撮影と編集

<Day3>

- ・撮影

宿題：編集

<Day4>

- ・試写
- ・動画ブラッシュアップ

宿題：動画を完成させ社内共有

<Day5>

- ・上映会
- ・投票
- ・表彰式

<補足>

- ・高校生30名程度、地元の企業や大学など5社程度の参加を目指す
- ・ミートアップでは地元の企業や大学などがブース的なものを出して、高校生が興味に応じて見てまわる
- ・そこで得た情報をもとに、取材したい企業や大学を選ぶ（希望が偏った場合は調整あり）
- ・取材先が同じ生徒同士でグループを作り、その後の活動はグループ単位で行う
- ・グループ単位で活動はするが、動画は1人1本制作する
- ・最終的に優秀な動画を選んで表彰することで、生徒のモチベーション付けをする
- ・地元のテレビ局と連携して開催し、番組に取り上げてもらうなどすることで、より地元への訴求力を高める

梶崎委員、鳥居委員のコンテンツ活用案

課外活動案②

施設取材編 4 時間 × 1 回

土木に関連する施設を訪れ、その場所の凄さや魅力を聞いた上で、その施設をPRするショート動画を1人1本制作する。

<STEP 1 30分>

- ・趣旨説明
- ・動画の参考事例紹介



<STEP 2 1時間>

- ・施設見学
- ・撮影内容検討



<STEP 3 1時間>

- ・撮影



<STEP 4 1時間>

- ・簡易編集
- ・キャッチコピー入れ



<STEP 5 30分>

- ・上映会
- ・投票
- ・表彰式

<補足>

- ・特に魅力や重要性を訴求したい地元の施設で開催する
- ・1時間で映像を仕上げるので、基本は編集があまり必要のない撮影をする
- ・映像だけでは意図が伝わらない部分も多いので、同時にキャッチコピーを考える
- ・1人1本動画を作るが、参加者同士で撮影を手伝ったりするのは問題ない
- ・最終的に優秀な動画を選んで表彰することで、参加者のモチベーション付けをする
- ・高校生や高専生に限らず、小中学生が参加することも可能

参考（梶崎委員、鳥居委員のコンテンツ活用案）

出前授業案①

アーカイブ映像活用編 2コマ×1回

土木の最新技術など、高校生に土木技術の凄さをプレゼン。

プレゼンの内容を受けて、予め用意された映像や写真などを使って魅力を伝える1分のショート動画をグループで制作する。

<STEP 1 20分>

- ・趣旨説明
- ・動画の参考事例紹介



<STEP 2 20分>

- ・最新の土木の凄さをプレゼン
- ・今回使える素材の紹介



<STEP 3 40分>

- ・構成会議
- ・キャッチコピー考案
- ・編集



<STEP 4 20分>

- ・発表

<補足>

- ・最新の土木技術など、高校生が関心を持てる題材をテーマにする（防災土木など）
- ・受動的に情報を受け取るだけでなく、能動的に情報を聞く姿勢を持ってもらうために映像制作のプロセスが重要
- ・短時間で1人で映像制作するのは難しいので、グループで制作する
- ・最後に発表会をして、感想などを共有する

梶崎委員、鳥居委員のコンテンツ活用案

出前授業案②

番外編 プレゼンバトル 2コマ×1回

土木の最新技術など、高校生に土木技術の凄さをプレゼン。

3名の土木のプロが、それぞれ別のテーマでプレゼンをし、どのプレゼンが一番面白かったかを高校生がジャッジする。

<STEP 1 10分>

- ・趣旨説明

<STEP 2 30分>

- ・プレゼン×3名
- ・ジャッジ
- ・感想など

<STEP 3 10分>

- ・まとめ

<STEP 4 50分>

- ・それぞれのテーマの補足
- ・質疑応答

<補足>

- ・制限時間3分で、高校生が興味関心を持てるであろうテーマでプレゼン
- ・オーディエンスの高校生は1～5点で、それぞれのプレゼンを評価
- ・合計得点が最も高かった人が優勝
- ・M-1の審査のように、プレゼンごとに得点を集計する
- ・プレゼンをすることで、普段自分が携わっていることを客観的に振り返ることができる
- ・プレゼンバトル後、紹介しきれなかったそれぞれのテーマ魅力を司会役の進行のもと座談会形式で深掘り
- ・高校生にも適宜質問を投げかけて参加を促す